

譚水風

第4号
(その2)



蒙談会発行

東日本大震災

第一次支援活動記録写真集

平成二十三年五月一日～五月八日

医療法人社団 水生会 柴田病院グループ

日本統合医療学会（IMJ）山口支部

埼玉県ボランティアグループ

発災一周年をすぎ復旧、復興は未だしである。昨年の記録写真を掲載して、被災地への更なるご支援を皆様にお願ひ申し上げる次第です。

「故郷永久」(株)三陸新報社浅倉眞理社長 撮影 刊行)より許可をうけ転載させて頂いた。



大津波で気仙沼湾内に流出する重油タンク 平成23年 3 月11日



気仙沼港を襲う大津波



湾内へ流出した重油に引火して火災発生



重油火災で炎上する漁船



焼けただれた湾内の漁船



機動隊による行方不明者搜索



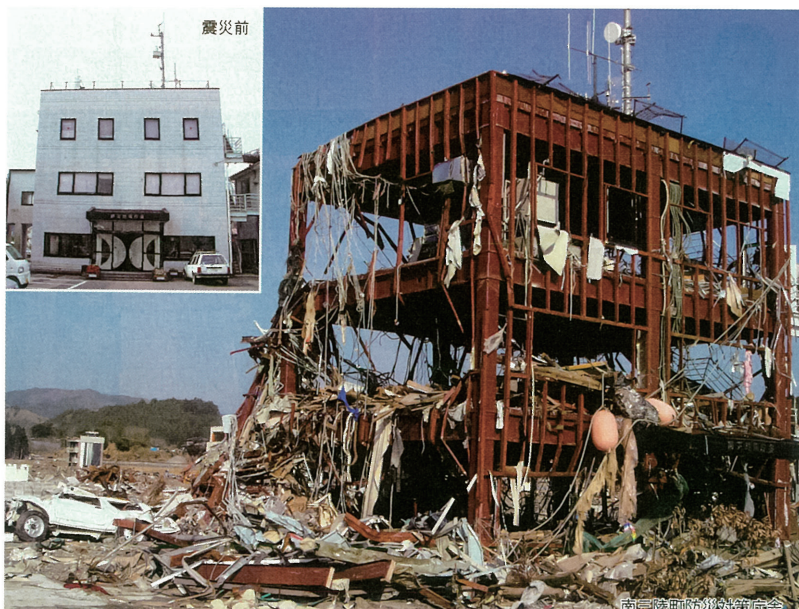
本吉響高校で救援活動する自衛隊



避難者の方たち（鹿折中学校体育館において）



犠牲者の冥福を祈る（津波と重油火災で壊滅した鹿折地区）
ししおり



南三陸町防災センター 女子職員の津波避難の呼びかけしていて殉職、嗚呼！



南三陸志津川の震災前

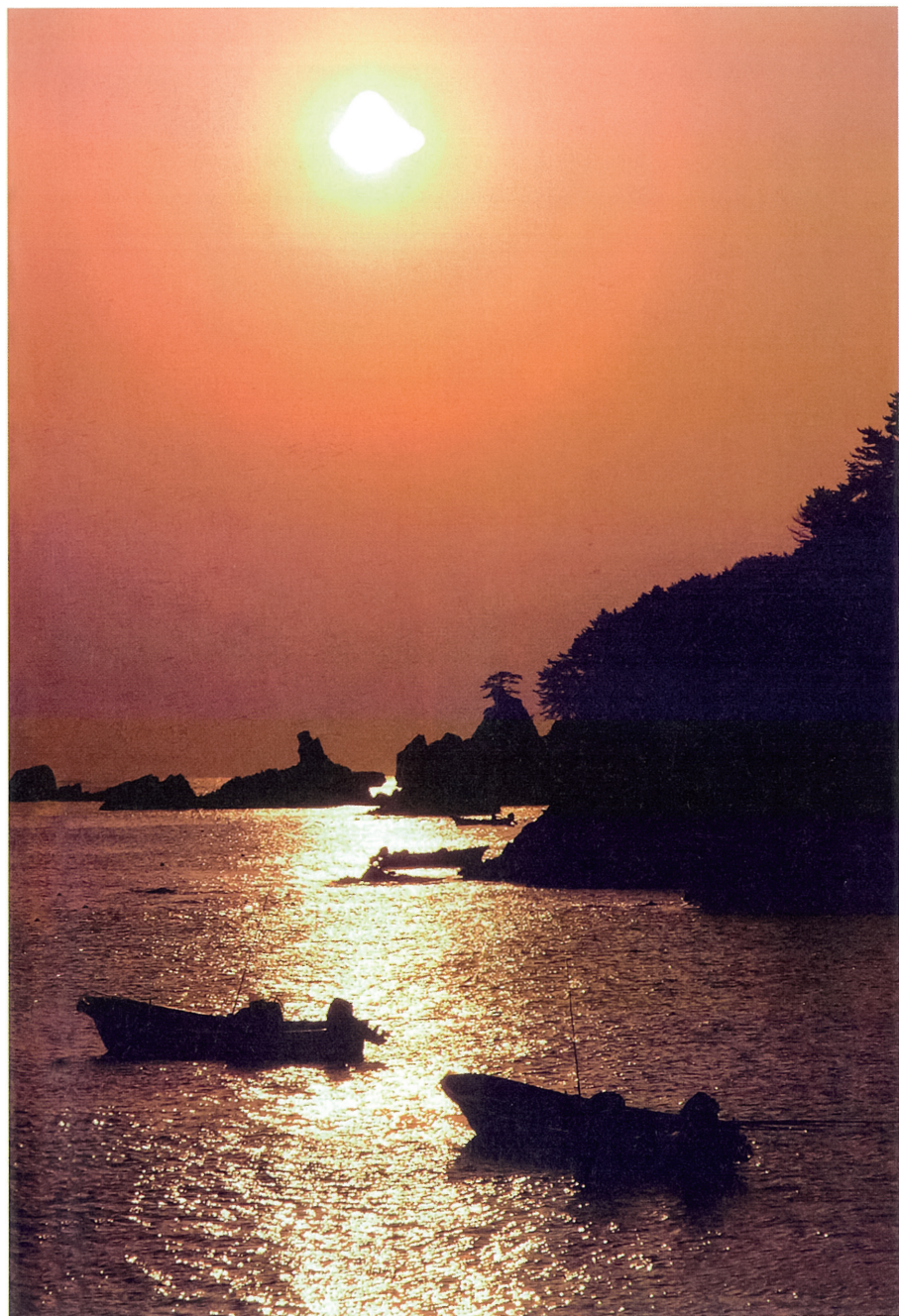


震災・大津波後 2011年4月



避難者を見舞われる天皇・皇后両陛下
 (後方に宮城県村井知事) (南三陸町) 4月27日





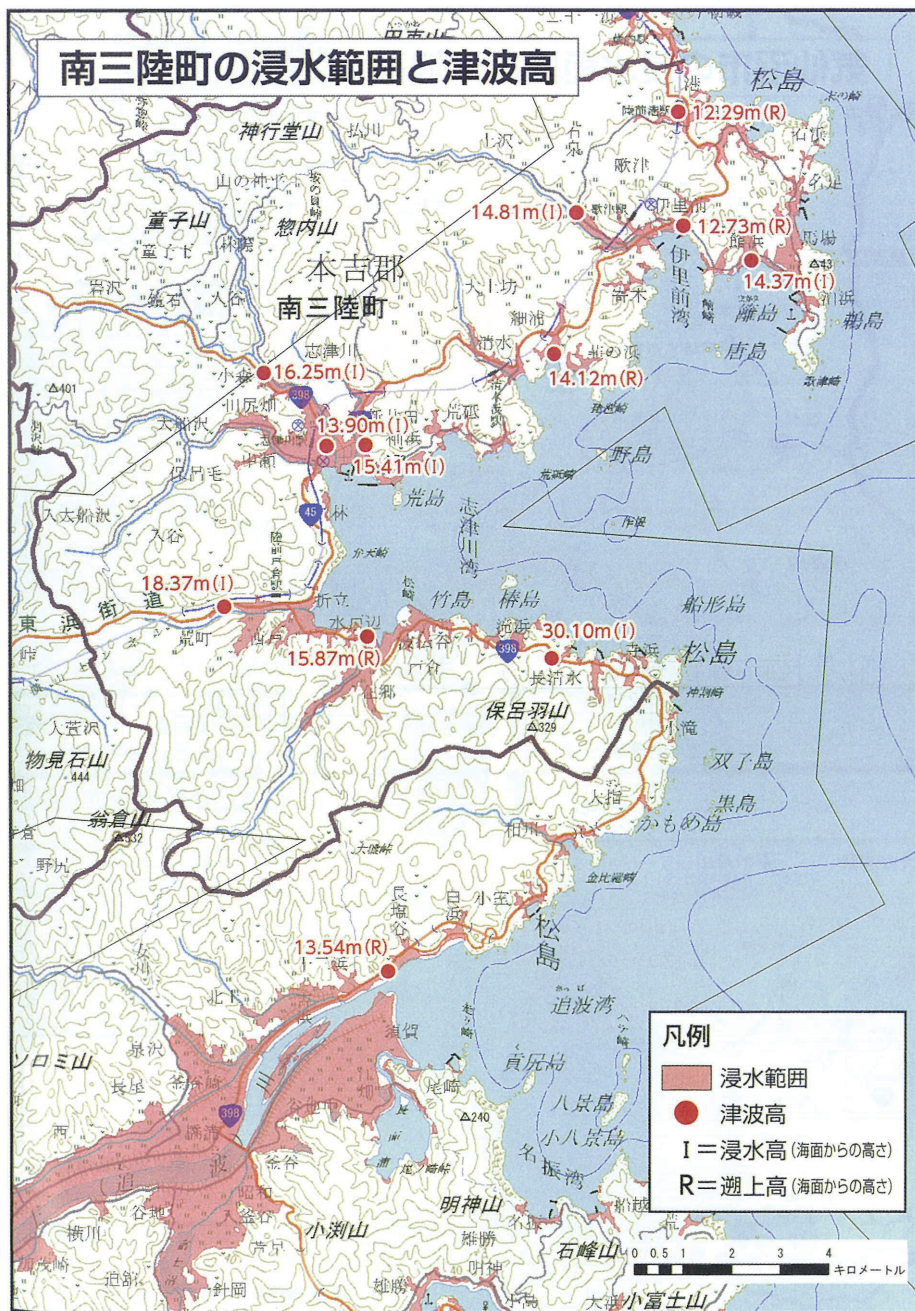
アワビの初開口 唐桑

気仙沼市の浸水範囲と津波高



国土地理院の浸水範囲概況図 (津波高は、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの調査結果から引用)

南三陸町の浸水範囲と津波高



国土地理院の浸水範囲概況図(津波高は、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの調査結果から引用)

東日本大震災概要

発 生：平成23年3月11日(金) 14時46分ごろ 震 源：三陸沖
 深 さ：24km 規 模：マグニチュード9.0
 震 度：【赤 岩】6弱 【笹が陣】5強 【本 吉】5強
 【志津川】6弱 【歌 津】6弱

(最大震度は宮城県北部で震度7) 3月11日午後2時49分に大津波警報発令

●気仙沼市

死 者 1,032人 (平成24年3月1日現在)
 行方不明 324人 (平成24年3月1日現在)

被害概況

(棟)

	地区(地域)	全 壊	大規模半壊	半 壊	一部損壊	計	地区の棟数に 占める被害の割合
家 屋 被 害	気 仙 沼	4,647	992	742	1,162	7,543	49.2%
	鹿 折	3,179	268	97	259	3,803	60.9%
	松 岩	1,245	120	165	655	2,185	34.5%
	新 月	2	12	44	344	402	7.9%
	階 上	1,746	215	197	510	2,668	60.4%
	大 島	775	199	86	306	1,366	36.5%
	面 瀬	578	96	86	453	1,213	33.8%
	気仙沼地域計	12,172	1,902	1,417	3,689	19,180	42.8%
	中 井	211	9	19	98	337	14.3%
	唐 桑	989	54	72	114	1,229	34.2%
	小 原 木	664	26	15	62	767	47.8%
	唐桑地域計	1,864	89	106	274	2,333	30.9%
	小 泉	1,118	57	28	75	1,278	69.3%
	津 谷	175	77	126	286	664	11.3%
	大 谷	1,109	174	128	227	1,638	43.6%
	本吉地域計	2,402	308	282	588	3,580	31.2%
	計	16,438	2,299	1,805	4,551	25,093	39.3%

※平成23年9月30日現在市税務課調べ

●南三陸町

死 者 565人 (平成24年2月29日現在)
 行方不明 310人 (平成24年2月29日現在)

被害概況

(平成23年8月31日時点)

地 区	り 災 戸 数 (戸)	り 災 率
戸 倉 地 区	523	76.8 %
志 津 川 地 区	2,044	73.8 %
歌 津 地 区	726	50.2 %
入 谷 地 区	8	1.5 %
計	3,301	60.93%

資料：町民税務課

気仙沼市の避難所の状況

(平成23年3月17日現在)

地区名	場 所	避難者数
気仙沼	旭が丘学園	110
	三日町キングスタウン	80
	気仙沼小学校校舎	620
	気仙沼中学校体育館	1,200
	ホテル望洋	150
	九条小学校	250
	九条4区自治会館	40
	桑南中学校	50
	市民会館	550
	河原田1区自治会館	50
	気仙沼高校柔道場・剣道場ほか1箇所	500
	白石電気	19
	一景閣	60
	プラザホテル	20
	第2保育所	310
新 月	高橋建具(陣山)・小山栄自宅	32
	太田2区自治会館	78
	青龍寺	40
	紫会館	130
	市役所ワンテン庁舎	276
	本庁舎(本庁・第2庁舎・旧福祉事務所)	200
	リンデンバウムの社	240
	新月中学校体育館	140
	特別養護老人ホーム恵潮苑	150
	防災センター	160
	総合体育館	1,800
	松岩公民館	600
	松岩小学校	350
	石兜保育所	49
面 瀬	水梨コミュニティセンター	21
	松岩八幡神社	200
	特別養護老人ホーム恵風荘	100
	上沢自治会館(岩月)	30
	面瀬中学校	570
	岩月保育所	150
鹿 折	新浜町1-9-17 佐藤信一自宅	14
	栄町2-1 菅野勝衛宅	80
	栄町106 後藤泰寿(カネコメ)宅	40
	新浜町1丁目9-36 吉田正浩宅	210
	興福寺	100
	浄念寺	100
	東陵高校	147
	鹿折中学校体育館	880
	鹿折県営住宅	250
	東中才会館	70
	西中才会館	60
	光が丘保養園	340
	浦島小学校	80
	大浦77-1 小野寺市郎宅	80
	大浦105-2 小野寺正一郎宅	30

地区名	場 所	避難者数
鹿 折	大浦237-1 小野寺賢三宅	30
	鶴ヶ浦高台ほか	320
	階上中学校	2,000
	海蔵寺	100
	最知保育所	50
	岩月星谷キングスガーデン	70
	階上出張所	15
	むらでん面瀬	40
	岩井崎高台	60
	大島小学校	750
	大島・丸沖事務所	30
	崎浜美和会館(長命寺)	40
	崎浜保育所	50
	新王平自治会館	20
	大島中学校	200
本 吉	大島開発総合センター	250
	本吉公民館	200
	松ヶ沢コミュニティセンター	50
	松尾コミュニティセンター	250
	松岡タウンセンター	210
	津谷館岡コミュニティセンター	70
	登米沢多目的集会所	20
	林の沢振興会館	100
	大沢(熊谷牛乳)	105
	本吉・寺谷コミュニティセンター	110
	大谷公民館	180
	仙廟寺	280
	須賀神社	40
	清涼院	400
	小泉中学校	530
唐 桑	小泉はまなすの丘	200
	高(阿部正人ビニールハウス)	10
	浜多目的集会所	250
	唐桑・熾々館	133
	第1高松園	160
	唐桑公民館・体育館	103
	唐桑中学校	50
	唐桑小学校	50
	鮎立老人憩いの家	120
	早馬館	43
	土筆の里	31
	越路集会所	20
	中井小学校	17
	中井公民館	65
	舞根水山 畠山重篤自宅	15
	畠山環自宅	33
	崎浜会館	30
	唐桑・館老人憩いの家	150
	小原木中学校	230
99カ所 合 計		20,086

避難所数・避難者数

地区(地域)	避難所数(施設) H23.3.20現在	避難者数 H23.3.17現在
気仙沼地区	20	4,765
鹿折地区	19	2,831
松岩地区	10	3,280
新月地区	4	530
階上地区	9	2,335
大島地区	7	1,340
面瀬地区	3	750
唐桑地域	16	1,250
本吉地域	17	3,005
計	105	20,086

気仙沼市の避難者推移



南三陸町の避難所の状況

(各避難所の避難者最多数)

場 所	避難者数
沼田・大森	1,500
ベイサイドアリーナ	366
沼田	348
沼田倉庫	130
大森	272
志津川小学校	688
志津川中学校	420
志津川高校	443
高野鉄工	30
平磯	350
憩いのうみ・あらと	400
細浦	200
田尻畑	51
保呂毛	188
大久保・民家等	150
大上坊	100
林生活センター	212
マリノパル	86
大雄寺	60
旭ヶ丘コミュニティセンター他	843
袖浜	200
水戸辺・在郷	141
クリーンセンター	22
荒町	120
自然の家	270
津の宮生活センター	450

場 所	避難者数
長清水	160
滝浜お寺	150
藤浜	100
寺浜生活センター	111
入谷小学校	350
入谷公民館	100
入谷地区民家	518
歌津中学校	1200
歌津デイサービスセンター	140
平成の森	300
名足保育園	280
馬場・中山生活センター	200
大磯カネサン	70
泊浜	550
石浜集会所	90
港親義会館	40
歌津つつじ園	250
寄木民宿やすらぎ	120
葦の浜荘	80
活性化センターいずみ	829
館浜・稲淵	174
横山小学校	240
柳津小学校	70
津山若者総合体育館	300
登米中学校	480
小滝	10

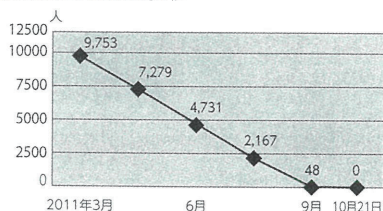
避難者数 9,753人

(震災前人口 17,666人 (平成23年2月末時点) の55.21%)

集団避難者数 2,576人

(町内以外に 栗原市 6カ所、登米市6カ所
大崎市 34カ所、加美町 1カ所
山形県 1カ所、秋田県 2カ所)

南三陸町の避難者推移



以上の写真と記事は三陸新報社「故郷永久」から同社専務「渡邊眞紀氏」の許可とご好意によって転載させて頂いた。

医療法人社団水生会撮影、東日本大震災第一次支援活動 主として宮城県気仙沼市でのボランティア記録



④病院、エームサービス(株)管理栄養士や朝市の方による炊き出し献立会議



①柴田病院「長寿泉の水」を福島へ送る、阪神淡路大震災の時も大量に送られた



⑤当院救急車「白兎号」 医薬品、支援物資を載せ出発



②多数の生干し、みりんなどを萩市榎八商店から寄贈を受ける。蒲鋒、竹輪、平天は中村喜一郎氏から



⑥大宮市パレスホテルで、埼玉組と合流、購入食料品を積み込む東日本大震災第一次支援活動チーム



③救援物資を梱包



⑥先着の支援物資を救急車に積み込む。お宮では鎮魂と復興祈願が毎日斎行されていた



⑦東北自動車道を北上する全国からの支援隊と夜明け前（5月2日午前3時）



⑧木喰上人遶天（りょうてん）大和尚が勧請した富士浅間神社



⑧東北道一ノ関I.Cから一般道に降りて気仙沼に向かう



⑫菅原秀紘宮司様に支援活動の安全祈願のお祓いをして頂く



⑨気仙沼市 鎮守 天神山 北野神社に到着（5月2日午前10時）



⑬炊き出しの食材や物品をセッティング



⑬地震で被災したビルと側にモーターボートが打ち上げられていた



⑬避難者の方と協力して一同炊き出しの準備に大忙し



⑭サポートする気仙沼市魚町 浜見山の上の避難所に急行



⑭炊き出しは冷凍保存して持参した葺市沖の日本海の桜鯛など魚類を調理



⑮この地区の守り神 紫神社 菅原宮司兼務



②作業中の自衛隊員、各処で活動し、感謝で頭が下がる



①一隊は市内視察。津波で破壊された家と車



③気仙沼市医師会訪問 会員の方々の被災状況を説明して頂いた 左が藤田事務局長、右は兄弟医師



⑩岸壁に打ち上げられた漁船と押し潰されたトラック



⑭味噌仕立ての桜鯛の汁完成



⑪大津波で流出して気仙沼湾から湾上へ漂着した重油タンク



㉘新鮮な漬物各種やちりめんを配ったところ大人気



㉙日本海のみりん干しやイカの生干しなどバーベキューセットで焼く



㉚焼き魚、焼きイカなど大行列 日本有数漁港も現在水揚げなく久しぶりの海の幸を喜んで食べて頂く



㉛避難所の皆様に夕食支援開始の挨拶



㉜地震と津波で倒壊した古い酒屋さん「男山」
(5月3日)



㉝炊き出しを始める。100名の方が来られた



③④山口からの「ぜんざいとおでん」の具材を解凍



③①地震と津波の激しさが分かる



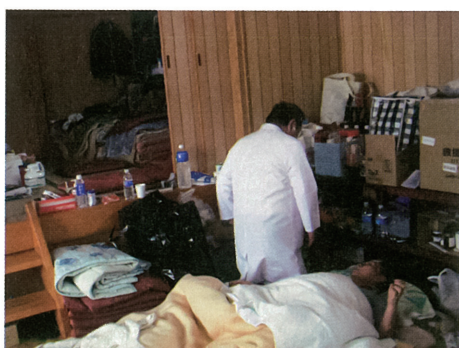
③⑤北京中薬膳医師による経絡マッサージ、柔整師も大活躍



③②流出した重油の大火災で全焼した鹿折（ししおり）地区



③⑥紫神社の隣りで津波が押し寄せ2Fまで水に浸かった猪苗代病院



③③紫会館で被災された方の診療活動を行った



④⑩ロコモーショントレーニング(運動器トレーニング)とラフターヨガ 長く体を動かしていない方が気持ち良いと笑う



⑦2日目の炊き出し大藁(たいそう)入りぜんざい、ホコリや煙を吸った方に著効 痰喀出効果あり。



④⑪呼びかけた近くの人達も集まって来られ、おいしいと言って下さる



③⑨おでんとぜんざいの調理中、焼ちくわ、かまぼこ、焼芋もつくる



④⑫長蛇の列で日頃はないメニューが大人気 ニヶ月ぶりに再会した二人の男性が喜びあっておられた



③⑨食事前のヨガ体操 萩市のインドで勉強してきたブロのラフターヨガのインストラクター



紫会館内熱発患者の方を診察。お薬で翌日よくなりました



被災者の方にマッサージする柔道整復師



④⑥市役所内の気仙沼市教育委員会へ楽器や文房具と山口の生徒さんの激励文を渡す（3日目）



④③隣の被災した猪苗代病院 佐藤事務長さんに医療資材や医薬品を贈呈



④⑦文房具、サッカー、バスケット、バレーボールなどスポーツ用品と山口の松原さんなど有志の楽器、クレヨンなどを市教育委員会へ託した



④④二日間にわたる炊き出しを終了して紫会館避難所の千葉代表からお礼のご挨拶頂く



④⑧気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンターに医療物資を届けた



④⑤5月3日帰りの大通りが電力復旧し、初めてスズラン街灯がともった



⑤②気仙沼市立小学校下に仮設住宅が建設中だった



④⑨東京からDMATやJMATなど救急医療チームが来て活躍していた。状況も聞く



⑤③港の岸壁上に打ち上げられた800トンの遠洋マグロ漁船、後に巨大船上クレーンで吊り上げ海に戻された



⑤④全国からのボランティアが集まってガレキ撤去や泥かきなどに大活躍 希望する作業者を募る



⑤④大変お世話になった北野神社 菅原秀紘宮司さんとご子息の権禰宜ご夫婦と別れを惜しみ再会を約して出発した



⑤⑤市の救援物資集配センターに行き、山口の人々からの支援物資をお渡しした



⑤8 WFP（国連食糧計画）で東北全域への食糧供給支援にて活躍の中井氏と懇談、状況を聞く（仙台市で）



⑤9 中尊寺金色堂、天台宗東北大本山 本堂で大震災物故者供養をお願いして帰る
数ヶ月後にユネスコ世界文化遺産に指定された



⑤9 仙台市の東北大学病院もヒビ割れなどで全科診療はできなくなっていた



⑤8 岩手県陸前高田市、遠くに全壊県立病院が見えるだけ、あとは大津波で何も無い廃墟に立ち呆然



⑥0 旧知の東北大学名誉教授 日本統合医療学会理事長、日本人工臓器学会名誉理事長 仁田 新一先生と懇談、現況も承る



⑤7 陸奥国一の宮 鹽竈神社、志波彦神社 鍵 三夫宮司様とお話して現状を聞き復興祈願をお願いした

支援活動者（山口県）
（埼玉県）

平山英子、三戸康子、柴田三大、柴田阿佐子、筆者
柴田輝明、柴田峰行

気仙沼市の小、中、高校への山口市内小、中、高校からの激励や応援メッセージ、ご支援に厚く御礼申し上げます。

激励文 協力学校 一覧表

No.	学校名	〒	所在地	TEL	FAX	校長 氏名	フリガナ
1	山口市立大内小学校	753-0215	山口市大内矢田1016番地	083-927-0011	083-927-0081	水上 哲彦	ミズカミ テツヒコ
2	山口市立大内南小学校	753-0215	山口市大内矢田1133-1	083-927-7373	083-927-7374	岸田 カナエ	キシダカナエ
3	山口市立白石小学校	753-0070	山口市白石1-10-1	083-922-0063	083-922-2072	浦田 敏明	ウラタ トシアキ
4	山口市立大内中学校	753-0211	山口市大内長野555番地	083-927-0024	083-927-0277	濱本 誠治	ハマモト セイジ
5	山口市立白石中学校	753-0070	山口市白石2-7-1	083-922-0387	083-922-4548	田邊 克己	タナベ カツミ
6	山口県立山口高等学校	753-8508	山口市糸米1丁目9-1	083-922-8511	086-922-0503	川野 あきら	カワノ アキラ
7	山口県立西京高等学校	753-0851	山口市黒川2580番地1	083-923-8505	083-932-0721	中村 龍夫	ナカムラ タツオ
8	山口県立山口農業高等学校	754-0001	山口市小郡上郷980-1	083-972-0950	083-932-0801	東田 浩一	トクダ コウイチ

気仙沼市医師会からのお手紙

謹啓

盛夏の候、益々御清祥の御事と拝し、心からお慶び申し上げます。
平素は当医師会の運営並びに地域医療の推進に当り、格別なる御高配を賜りご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、この度（平成二十三年三月十一日）の東日本大震災におきましては、多大なる御心配をおかけし、又、特段の御配慮を賜り御丁寧なる御見舞や誠に心強い御励ましの御言葉をいただき、かつ、数々の支援物資等を御恵贈いただき、誠に有難う表心より厚く御礼申し上げます次第であります。

この度の東日本大震災においては未曾有の被害となり、当医師会においては、管内四十四施設（老健三含む）中、全壊二十九、一部損壊七と壊滅的な被害を受けましたが、多くの皆様の温かい御支援と御配慮により今日までに仮設診療所及び一部再開を含め、三十施設が漸く再開を見ることが出来ました。誠に有難うございました。

しかしながら、本来の地域医療の復旧にはまだまだ程遠い現状であり、会員一同一丸となって地域医療の再生に向け努力してまいりたいと存じます。何卒今後ともより一層の御厚情と御指導を賜りますと共に御支援下さいますようお願い申し上げます。

本筆にて甚だ恐縮であります、皆様の益々の御健勝と御隆盛を心から御祈念申し上げ、略儀ながら寸書をもって御礼の御挨拶とさせていただきます。

誠に御挨拶が遅くなり大変申し訳ございません。どうぞご容赦の程お願い申し上げます。

敬白

平成二十三年七月

社団法人気仙沼市医師会
会長 大友 仁

柴田病院
理事長 柴田 昭 様

送附 気仙沼市医師会 宛
お礼に送附してあります。ご協力ありがとうございました。
気仙沼市医師会 謹啓

気仙沼医師会員は2名溺死、7割の診療所が壊滅した。

平成23年7月5日

山口県立山口高等学校生徒会の皆さま

気仙沼向洋高等学校生徒会長 荒牧 恵

応援メッセージへのお礼

拝啓

暑さ厳しき折から、山口県立山口高等学校生徒会の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。先日は多くの応援メッセージをいただき、厚くお礼申し上げます。また、お礼の挨拶が遅れてしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。

わたし達の母校、気仙沼向洋高校は気仙沼市の階上地区、波路上というところに建っていました。向洋という名のとおりの海が見える場所にあり、近くには階上漁港や御伊勢浜という海水浴場、岩井崎という波が吹き上げる景色が有名な観光地など、海に触れあえる学校で、部活動のとても盛んな高校でした。

震災後たくさんの不安を抱えての学校再開となりましたが、向洋は3校に分かれ、未だに全校生が一緒になっての活動が出来ずにいます。慣れない環境や、他校にお世話になっているという後ろめたさなど、この先どうなるのだろうと不安に思っていた折、みなさまからの励ましのメッセージが届きました。私だけでなく執行部の仲間たちも同じように励まされ、1日1日を大切に一生懸命にがんばっているところです。

今は授業や部活動も以前のように再開されて、もとの活気を取り戻しつつあります。そして11月には全校生が一緒になれることを楽しみに各校でがんばっています。

まだまだこれからたくさんの問題がありますが、私たちは力を合わせてがんばっていきます。遠いところから、心のこもった励ましの便りをいただき、ほんとうにありがとうございます。

皆さまもお体にお気をつけてお過ごし下さい。

敬具

追伸

勝手ながら、いただきました励ましのメッセージを向洋の学校新聞に載せさせていただきました。また、全クラスへ掲示をさせていただきました。向洋の全校生が元気をいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。新聞は同封いたしますので、よろしかったら読んでください。

(御礼状の一部)

お世話になりました被災地の方々に御礼を申し上げます。
被災地の皆様のご回復と復興を心からお祈り致します。

平成23年5月1日～8日

宮城県気仙沼市で支援活動をして陸前高田市から仙台市を視察した

柴田眼治・三大 (文責)

みつひろ ぶんせき

俳句

八雲

句集「八雲」について

柴 田 眼 治

母勝子は昭和四十三年頃から本格的に句作を始め、「砂丘山口支部」と「山口市医師会榎野句会」の同人として、四季の折々にふれては投稿していた。俳号は初め「翠彰」（すいしょう）をもらっていたが、昭和五十四年より「八雲」（やくも）に改めている。

「や雲立つ 出雲八重垣 妻隠みに 八重垣作る その八重垣を」と須佐男命が奇稲田比売を迎えて詠まれた古事記の中の一節から「八雲」としたという。

神話のふる里、出雲への憧憬は強く、出雲

大社はもちろんのこと、その裏手にある八雲山や八雲の滝とか、「八雲たつ出雲風土記の丘」を訪ねたり、八束郡にある神魂（かもす）神社や熊野大社へも参拝している。

母の両親は子宝にめぐまれず、紀州の那智熊野権現に願をかけて生まれた長女であったために母は大事に養育された。又一方で幼少より舞踊、茶道、華道、琴、三味線と習い事をやかましく躰けられたようだ。さらに山口という土地柄もあって古き良き日本の伝統芸術に対する審美眼は素人ながら、高かつ

たように思う。塗り物や茶器の手入れは、こ
とさら丁寧でその取り扱いにはやかましか
った。しかし学生時代は阪南の帝国女子薬専
(今の大阪薬科大学)の山岳部に属して紀泉
アルプスを登ったり、六甲から宝塚あたりも
よく遊歩して、活発な面もあったという。

父と結婚後は敗戦後の苦しい時代を子育
てと、診療の補助におわれて「たおやめぶり」
を発揮するどころではなかったようだ。晩年、
ようやく、磨かれた素質が発揮しはじめた様
に思われる。俳画は赤松柳史先生の御指導の
もとに時間を作っては絵筆をとっていた。

なくなる三ヶ月前、薬専の同窓会で勝浦に
ゆき、熊野三山から那智の滝を巡って、自分
の出生の地の神仏へお礼参りができたとい
ふこんでいた。

「ふだらくや南浄土の梅雨の空」

と南紀の補陀落渡海の記事を偲んで詠んだ
句は生と死の予感が汲みとれる作である。那
智に生まれて出雲へ還る。大和国の日の出と
日没の地を愛した母らしい一生と考えられ、
今は八百万の神々のみ許へ逝き、爽やかにま
た和やかに暮らしていると信じている。今回
没後三十三年となったので母の句集「八雲」
から抜粋した句を「風水譚四号その二」に偲
び草として掲載させて頂くこととなり、感謝
に堪えません。

生前おつきあい頂いた皆様に心より御礼
を申し上げます。

本句集は昭和五十七年に弟輝明(埼玉北本
整形院長)と共同刊行し、さらに抜粋したも
のです。

句集「八雲」より抜粋

昭和五十七年九月三十日初版

昭和四十三年

路地ゆけば猫よこぎりぬ春の宵

(砂丘会)



昭和四十四年

秋の女さんごのかんざしさしてあり

この暮のせわしき布団手入れせず

たちまちにぬかるみとなり今日の雪

お座敷のかゝりし妓ゆく春の路地

誰か染めし水仙の紅かなしけり

寒行の頭巾の女がえしやくせる

春さむや茶屋の甘酒うまかりき

僧堂の柳ゆれいる涅槃西風

童らあまた姿小さき潮干狩

母公堂山氣身に沁む夜明けかな

蘭陵王秋の海背に舞ひにける

袂にて風おくりいる巫女ひとり

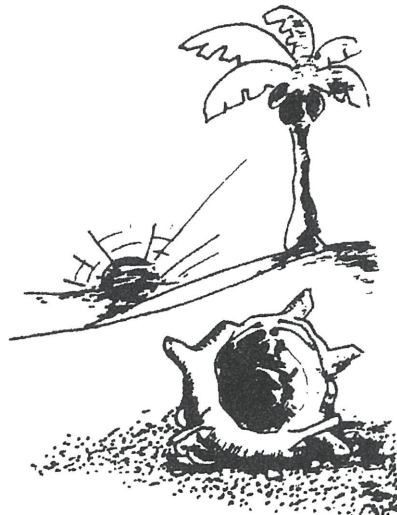
夏すだれ嫁となる娘を垣間見し

布団綿このふくらみに陽のこもり

(樫野句会)

昭和四十五年

潮騒の彼方きらめく秋の灯



初弾きやさえし音色にあらねども

寒椿一度住みたき数寄屋風

軒ごとに豆まきのあり京の路地

あわただし春の百花の咲き揃う

台風の一夜明けたる後仕舞

お地蔵に施餓鬼の卒塔婆供えあり

秋晴れの高原車道空までも

秋の夜を郷土の舞に見惚れたり

(砂丘会)

思はざる人の名のあり賀状かな

何となく気の重き夜の炬燵かな

入学のつき添ひ人のやゝすまし

病み上り目にしむ如き山つつじ

青梅の固き音して手より落つ

若き娘等メロン食むなり華々しく

繰り言のながきに倦みて枇杷をむく

裁ちものも縫ふ事もいや雨しとど

行く秋や老妓の面の悲しくて

ストーブを寄せてくれたる通夜の人

(樺野句会)

昭和四十六年

とがりたる女の声す朝の霜

寒菊の照葉色濃き薄茶席

山焼くや影絵の如き夜の古塔

銀扇をかざす袂の秋の花

秋空を見上ぐる人の瞳爽やか

初釜やなつかしき顔久々に



木喰（もくじき）の木彫の笑みや寒の入り

忘れたる傘取り戻る細雪

銭のこののみ云ふ老女春寒き

紅白の幕なまめきし春山門

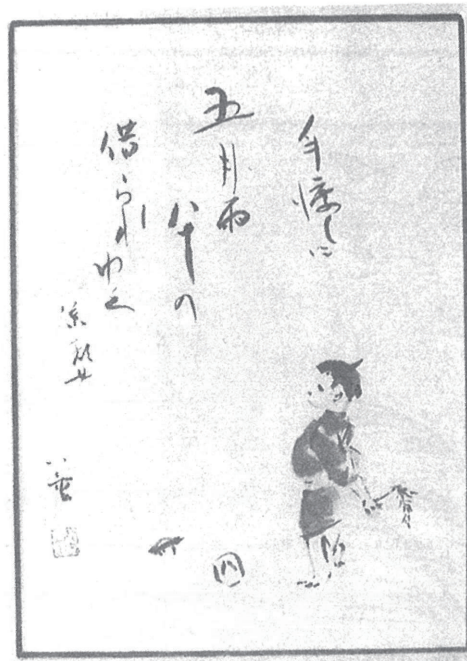
京彌生喰い初め椀を誂へし

曼珠沙華巡りめぐりて径はるか

台風の去りたる後の濡れ畳

秋晴れや山の境を杖で指す

ヒレ酒にいさゝか酔ひし嫁が父



河豚旨しさらに好まし赤絵皿

(榎野句会)

昭和四十七年

傘さして心経誦せし涅槃像

風に乗り汽笛近づく春の宵

白足袋のしめりつめたき冬の雨

はいまわる孫とりかこみ松の内

得意気な炬燵の上の孫の顔

文とどき袂に入れし朧月

五月晴れ家に過ぎたる鯉のぼり
ひっそりと打水ありて京の路地
香水の瓶いろいろと女の子

夜具干せし竿たわみたる秋の朝
古典でも読み耽りたき夜長かな

孫達の訪れの報ながき夜

旅鞆持つ手も軽し小春かな

トラックに白菜リヤカー軒下に

我と共老ひたる障子煤払ひ

寄せ鍋を運ぶ女の紅襷

(榎野句会)

昭和四十八年

松茸のかほりはすれど羊歯の径

手帳よりハラリ落ちたる旅紅葉

空梅雨に田面人影まばらなる

後を追うモーターボートの白き線

夏めくや子を呼ぶ母の弾む声

病床を一族見舞ふ立夏かな



久方に針持つ心地四温かな

彌陀二尊もの云ひたげに春の寺

重たげな籠のうちなる青き梅

公害の公聴場の蒸し暑さ

何事が罵しり合える残暑かな

夕焼けを背にして走る童かな

裁ち損ねしばし思案の暑き秋

秋扇かざして語る路傍かな

たゝみ方教へて蚊帳の別れかな

秋色の濃き倉敷の家並かな

天目の茶碗もありて紅葉かな

昭和四十九年

いさゝかに背高くのびしつくしかな

春雷におもわず針を落としたる

竹の子を掘りかねている娘かな

夏祭り女の易者軒かげに

むつかしき税務の話寒に入る

(砂丘会)



占ひは大吉とあり春を待つ

おみくじを枝に結びて春を待つ

山椿色濃き径の神籠石

文豪の碑のあたりなる桜んぼ

夕焼や汚れて戻る童たち

施餓鬼あり木蔭に残る暑さかな

昼寝せる児等累々と並び居る

朝寒や電話に通ふ師の訃報

灯明のもとにしめやか回向菊

菩提寺に母の名のあり茸の籠

藁灰のぬくき火桶に手をかざし

(樫野句会)

出雲路や風舞ひ昇る二つ三つ

昭和五十年

夜桜に女の帯のなまめきて

先帝祭太夫の髪に風光る

友禅に染めても見たき若葉かな

(砂丘会)



七夕や不思議な恋のほしき夜

落ち栗や逝きし弟はいくつなる

つま先のおぼつかなくて春の雪

長唄の師匠の小部屋猫柳

観音の靈驗ききつ若葉径

願懸けて通ふ清水若葉寺

行春や旅立ちし子の着きたるか

スカンポの道を園児の列の行く

螢火や遠くの人になつかしき

孟蘭盆会無縁墓にも灯一つ

氷のうの溶ける早さや油照り

秋の旅誘ひの電話吾病みて

おでん炊く匂ひただよう夜寒かな

齡とはかゝるものかや初時雨

左手の手袋ばかり残りたる

花嫁のお色直しや菊薫る

測量の男等野菊踏まず行く

(樺野句会)



すがれたる背をもつ女冬の雲

孫たちを抱きて目出度き年酒かな

謡曲となつて年酒の盃を置く

水温む流れの田芹青きかな

対岸も花ものどけき渡しかな

春宵や博士となりし吾子の肩

クラス会宿の浴衣で寮歌かな

風揚げの糸子供等にゆずらざる

残雪やローカル線の鉄路かな



菜の花と海の蒼さの車窓かな

葉桜や遍路煙草を吸ひいたり

青葉雨吉備津の釜の巫女老ひし

青葉かげ飛龍の滝を拝すなり

掌のうちの天道虫を見せに来る

抜歯せる頬おさへいて半夏生

同病を相憐みて麦酒抜く

天の川今宵流星しきりなる

立話男西瓜を抱きしまゝ

峯に入る行者草鞋を確かめつ

しめやかに雨とはなりぬ夜の長き

写経する朝のひととき鴉の声

何も彼も昔のことよ冬紅葉

片時雨さけて語らふコーヒー店

秋日和きようフイレンチエに旅せるか

どんぐりを拾ふ旅人吾れもまた

時雨来て心せかるゝ蔵仕舞



昭和五十二年

女装せるカルメンも舞ふ忘年会

中国の星占いやクリスマス

初詣で宮司は笛の名手なり

筆初め先づかの君に書かばやな

うづたかく春菊の束運ばれ来

古老らの梅の噂や二月堂

寒明けや嫁の手編の春シヨール

雛のごと並びているの孫達は

砂掬ふ伊那佐の浜の卯月寒（出雲にて）

八雲たつ風土記の丘のさつき空

バラ展で待つ言伝てのありし朝

夕陽の映えしコルベン薔薇を挿す

梅雨寒やいさゝか微熱体温計

青嵐最上の川の舟くんだり

清滝の流れビールに堰かれをり

逞しきドイツ娘や大ジョッキ

水指しに映す手はずの大文字

菱採りの女いさゝか年増なり

(砂丘会)

書初めの孫なにごとか眩やきて

畳屋の畳持ち去る寒もどし

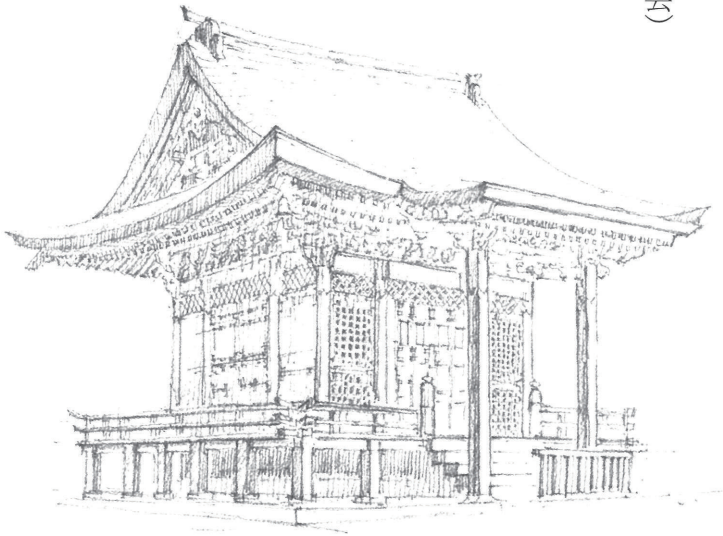
春光やおつむてんてん上手な児

青田果つ彼方月山雪残る

あげ潮に磯の香のこして夏の橋

カンビールどつとあふれて新幹線

彼岸花運動会の戻りらし



つれ戻す子を背負ひての刈田道

旅の秋里の祭りに逢ひにけり

古窯路バス乗り替へて瀬戸の秋

玉鋼燃えさかる冬焰のむ

昭和五十三年

メルヘンの小人眠るや末枯野

山茶花の精ひそむかや詩仙堂

冬紅葉みやげに重しきらら漬

冬紅葉肩逞しき禅の僧

年毎に華やかさ増す破魔矢かな
洋風の黄なるはまたも落下せる
立春の今日より厄のあけにけり
肌荒れて化粧映えせぬ春の風邪
宇治十帖瀬音に春の定まりぬ
雪解風頬かむりして老師さま
紅の花ルーツ遙かなエジプトよ
昏れなずみ秋風漂う神体山
地蔵盆われも接待の客なりし



ある日ふと雲の流れに秋をみる

石仏も童も草も夕焼色

やや帯のさがりたる児にお年玉

陶壁の紅志野ほのか春浅く

快方にむかふ病舎の揚雲雀

意外なる人芸達者花見酒

もめごとの一段落や竹の秋

五月雨の激しきさなか救急車

茶の花の白ひそかなる坂の径



京風味そとは北山しぐれかな

落葉してインテルサツト見え初めぬ

柚子の味噌つくる気配の厨かな

(樫野句会)

昭和五十四年（柴田翠彰改め八雲となる）

四条より二条へ歩む京師走

くず切りの甘さひとしき冬の旅

旬想ねるつもりが午睡あたゝかや

春の宵灯すに惜しき暮色かな

青春の想ひたぐりつ青き踏む

ピクニック家族連れなる子供の日

奥高野水かけ地藏へ青嵐

海月刺す海よと母は嚇かしつ

汽笛きくSL試車か梅雨晴間

神楽たつ太鼓の音や秋の空

ふと目覚む出で湯の窓に初茜

旅に出て見知らぬ神に初詣

踊り初め八十路の女の立姿

如月の寒天を切る居合抜き

五人目の孫男児にて春可祝

貴妃の艶葉桜となり庫裡静か

関門の潮絢爛先帝祭

古寺の秘佛開帳柿若葉

石楠花のおくれ花なり奥高野

京鹿子花風情の娘なりしが

見おろせば田毎の青さ深まりつ

鵜飼の火花街つきしところより



夕焼や外科医の肩の疲れかな

秋雲を僧侶と見上ぐ六地藏

理趣經に身に沁みわたる秋の暮

秋の灯やふとかの友のなつかしき

白秋の歩みし道の秋桜

神楽たつ里の祭りの栗の飯

日の本は不思議の国よ神の留守

きゝ酒に首かしげいる新酒かな

昭和五十五年



ひとり身となりし姿の初鏡

亡き夫の座位そのまゝに春炬燵

ビーカーにつくし活けるナース達

落ち椿首にかざして遊びし日

葉桜や葉の重りてゆれいたり

筧の白子門辺に届けあり

高速道虹に向いて馳せすゝむ

関門の潮眼下に夏座敷

ラ・セーヌと云う名の喫茶柳の芽

いけ垣の根もと茗荷の芽を見たり

アルバムの子なつかしき秋の夜

滴りのみ仏となり鐘乳洞

やぶ蔭に紅の椿の一つ見ゆ

あの時もたしか矢車からからと

掃くこともしばし忘れむ八重桜

一輪の香にむせぶ夜や白牡丹

孫たちの籠いっぱいの苺かな

今もぎし細きおくらをきざむ音



遠花火庭の花火もまたたのし

初盆会いまでも昔の盆提燈

西の京秋を彩る文化祭

秋の女珠数まさぐりて寂かなる

針に糸長きをたのみ小六月

七五三ちよつとおすまし連れ立ちて

朝寒や衿立て急ぐ通勤者

〔榎野句会〕

昭和五十六年

タンカーは白き波立て冬海峡

結露せる玻璃戸越しなる焚火かな

峰々は眠りつ団地建ちすゝむ

女剣士の隊伍を組みし薄暑かな

初夢も見ずに目出度き朝かな

年玉の袋ならべし孫の数

豆撒くや鬼面の声は大いなる

啓蟄やまこと小さき天道虫

小皿なる白魚あはれおどり食ひ

花冷えやライト消えにし五重の塔



雑草も花いっぱいはなの春撩乱

看護婦と讃美歌うたふ朧月

梅雨雲の晴れ間ひと筋那智の滝

ふだらくや南浄土の梅雨の空

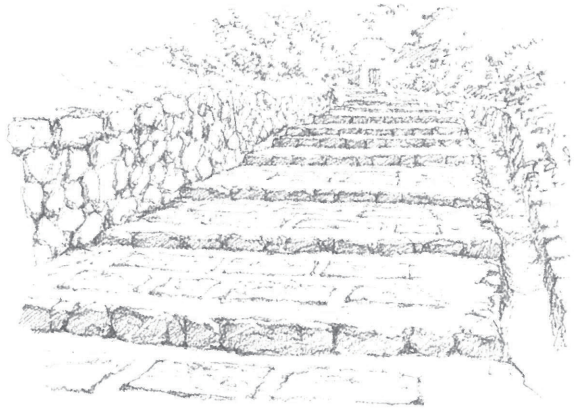
愛らしき水着干しあり午後三時

新しき茅の輪くぐりて詣でけり

ランドセルころがっており夏休み

夕暮れて夾竹桃の白き花

(樺野句会)



カット (片柳 やす子)

※一部イラスト集より

大村益次郎医学記念碑について

医療法人社団水生会 柴田病院

理事長 柴田 眼治

平成十一年に大村益次郎の医学記念碑が小鯖柁に建立された。この地は往古、長州藩の刑場があった処である。慶応三年（一八六七）の秋に継子二人を殺した女囚が処刑された。

藩の医学校「好生堂」から依頼されて大村益次郎が腑分け「解剖」を行った。当時、女性遺体の解剖は珍しかった。大村は第二次長州征討（四境戦争）の作戦参謀として浜田口の戦いに出陣して圧勝し、山口に凱旋したが、残務に忙殺されていた。しかし、医学者でも

ある大村は好生堂の要望を快諾して長州藩の医師のためにメスをふるったのである。

この時の記録に「大村先生またその懇望により、のぞみて体内の難部を解き、一々施術の要約を講説す。衆医環立し眼を注ぎ、息を殺してその周密なる能技を感視せり。」とあって多くの医師が「西洋医学の粹」と感嘆したのだった。

即ち、ここは山口における近代医学黎明の地として記念すべき史蹟であったと云えよう。

そこで、一年かけて「女囚腑分けの地の記念碑」を建てようと準備をすすめ、地域の皆さんに呼びかけたところ多くの賛同者が現れた。さらに医師会の有志の方々にも協賛して頂いた。

おかげをもつて、平成十一年十一月七日に「大村益次郎医学記念碑」が完成した。

その後、この地には平成二十一年六月二十八日大村益次郎が渡航費を調達した関係から長州ファイブの顕彰パネルや五傑石が建てられ、史蹟探訪の人々が多く訪れる場所となった。

ここは、大内中学校のグラウンド南に位置している。近隣の生徒がこの地を訪れ、案内看板を目にして、国内外に雄飛する人物が現れてほしいと期待し祈念している。



朝日を浴びる記念碑と六地藏



③序幕準備完了



①顕彰広場の整地



④参列者代表による除幕



②顕彰パネル除幕式の準備



⑤顕彰パネルと日英国旗
(平成21年6月28日)



⑧大村益次郎医学記念碑と長州ファイブ顕彰パネル、五傑石



⑥長州五傑石



⑨柩六地蔵を参詣する少年たち



⑦参会した方々

吉田山口副市長、大内倶楽部、山口日英協会会長、洞海寺住職、大内・小鯖地域交流センター所長、蒙談会会長、山口ふるさと大学学長など



⑩後にこの地は山口市により簡易舗装された

東日本大震災

第二次支援活動記録写真集

平成二十四年五月一日～五月六日

医療法人社団 水生会 柴田病院グループ

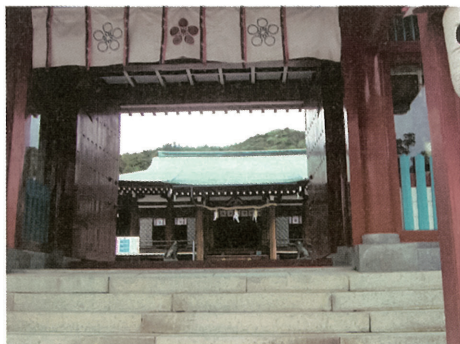
日本統合医療学会（IMJ）山口支部

千葉・東京・仙台ボランティアグループ

医療法人社団水生会撮影、東日本大震災第二次支援活動
主として宮城県気仙沼市でのボランティア記録



④支援物資作業仕分け作業風景



①防府天満宮（山口県防府市）日本最初の天神社



⑤山口市内の小・中・高の学校より寄せられた応援メッセージ



②防府天満宮 鈴木宏明宮司様（写真左から三人目）に経緯を説明する筆者（写真左から二人目）



⑥出雲大社から頂いた御神土
御神土を撒く事で土地が清められると言われている



③平成24年4月26日震災復興祈願をした紅梅・白梅
拝受、気仙沼市北野神社へ届ける



⑩天神山 北野神社（宮城県気仙沼市新町）



⑪平成24年5月3日 天神山 北野神社にある浅間神社と小富士 日東木食上人遼天和尚が富士山に登って金明水で大乘妙典を多くの人々と一字一石経として墨書した。当地の人々の安寧を祈願し、当社の長久を祈念してのことだという。



⑫平成24年5月2日 壊滅した気仙沼市鹿折地区に打ち上げられ1年後も放置された大型漁船



⑦平成24年3月11日大津波で決壊した堤防（岩手県九戸郡野田村）平成24年5月2日



⑧1500戸のうち500戸が津波流失 御神土にて土地を清めて鎮魂と復興祈願をした 平成24年5月2日



⑨岩手県九戸郡野田村被害状況 1500世帯中500世帯が大津波の影響により全壊 平成24年5月2日野田村役場へ医療物資寄贈（岩手県九戸郡野田村）



⑬平成24年5月4日 宮城県気仙沼向洋高等学校にて励ましのメッセージに見入る教頭先生らと生徒会執行部の皆さん



⑭平成24年5月2日 大津波と重油火災で壊滅した気仙沼市鹿折地区へ打ち上げられた大型漁船



⑮平成24年5月3日 気仙沼市最大の五衛門ヶ原仮設住宅108世帯を訪問



⑯平成24年5月4日 激励や応援メッセージを気仙沼市教育委員会へ寄贈



⑰平成24年5月3日 保健相談&簡易検査 バイタルサインチェック、血中酸素濃度測定、骨密度測定を実施した



⑱平成24年5月4日 気仙沼市教育委員会にて 左から小野寺課長、気仙沼市教育委員会 白幡教育長、柴田病院 柴田室長、(株)日本経営 澤木課長



㉓平成24年5月3日 ストレッチ & 太極拳 & ラフターヨガ (笑いヨガ)



㉒平成24年5月3日 骨密度測定



㉓平成24年5月3日 夜通し行われた炊き出し用「ちらし寿司」300食 仙台から参加の伊藤さんも元料理人の腕をふるう



㉒平成24年5月3日 医師面接 メンタルヘルスケア & 医療相談



㉓平成24年5月4日 北野神社参集殿にて炊き出し用「ちらし寿司」準備風景



㉒平成24年5月3日 鍼灸師・柔道整復師による経絡、経穴マッサージ



㉘平成24年5月4日 鎮魂・復興を祈念や祈願した梅などの植樹を行う前のお祓い



㉙平成24年5月4日 炊き出し用「ちらし寿司」300食パック詰め風景



㉚平成24年5月4日 A M7:00 犠牲者鎮魂祈念植樹・復興祈願穴ほり



㉛平成24年5月3日 鎮魂・復興・祈念や祈願して一字一石写経をする北野神社 菅原秀紘宮司



㉜平成24年5月4日 A M7:00 犠牲者鎮魂祈念植樹・復興祈願写経石奉納



㉝平成24年5月4日 参加者は鎮魂・復興・復興を祈願して一字一石写経をした



③4 祈念植樹の翌朝 北野神社の方々との撮影



③1 平成24年5月4日 防府天満宮からお預かりした白梅の祈念植樹



③5 平成24年5月4日 田中前仮設住宅にて保健・医療・福祉相談



③2 平成24年5月4日 山口県の防府天満宮からお預かりした紅梅の祈念植樹



③6 平成24年5月4日 田中前仮設住宅にて医療風景、坐骨神経痛の方へ脊柱緩和術施行。疼痛緩和された



③3 平成24年5月4日 紫神社・柴会館へ河津桜・紅梅・白梅を復興祈念植樹している風景



④⑩平成24年5月5日 気仙沼市鹿折地区視察 大津波と重油火災で壊滅した鹿折地区の説明



③⑦平成24年5月4日 ストレッチ&太極拳&ラフターヨガ (田中前仮設住宅)



④⑪平成24年5月5日 大型漁船に押し潰された状態のままの車 人は乗ってなかったという



③⑧平成24年5月4日 各戸へ回り「ちらし寿司」を配った。とても喜んで頂いた (田中前仮設住宅)



④⑫平成24年5月5日 ガレキ撤去作業が未だに終わっていない重油火災があった鹿折地域 (気仙沼市内)



③⑨平成24年5月4日 仮設住宅へお住まいの方を訪問し介護相談をする当会スタッフ (田中前仮設住宅)



④⑥平成24年5月4日 保健・医療・福祉相談 南町復興商店街 紫市場入口にて



④③平成24年5月5日 建物全てが大津波によって流れ家
家の土台だけが残った状況（気仙沼市鹿折地区）



④⑦平成24年5月4日 炊き出し支援：利き酒コーナー
山口県銘酒・五橋・瀬祭・山頭火（南町紫市場イベント会場）



④④平成24年5月5日 前日の大雨の雨水がまだ排水でき
ていない様子（気仙沼市鹿折地区）



④⑧平成24年5月4日 炊き出し支援に行列手作りクッキ
ー、焼魚、焼鳥コーナー（南町紫市場イベント会場）



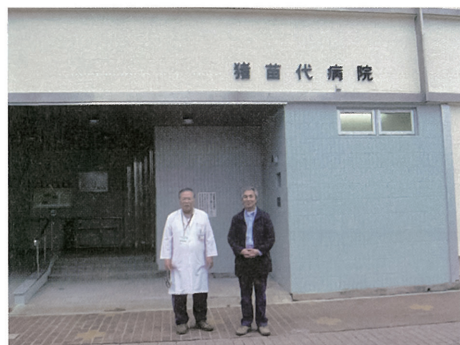
④⑨平成24年5月5日 復興商店街 南町紫市場



⑤②平成24年5月4日 復興商店街「南町紫市場」にて
(写真左から筆者・猪苗代病院 佐藤事務長・気仙沼市医師会 藤田事務局長・柴田病院 薬局長)



④⑨平成24年5月4日 炊き出し支援 大勢の皆様が来られた バーベキュー・ちらし寿司・お吸い物(南町紫市場イベント会場)



⑤③平成24年5月4日 猪苗代病院前にて 復旧された猪苗代病院を佐藤事務長に案内して頂いた(写真左から筆者・気仙沼市医師会 藤田事務局長)



⑤④平成24年5月4日 紫市場責任者坂本様と炊き出しメンバー(復興商店街紫市場イベント会場)



⑤⑤平成24年5月6日 AM8:00 全員無事に帰山し支援活動終了

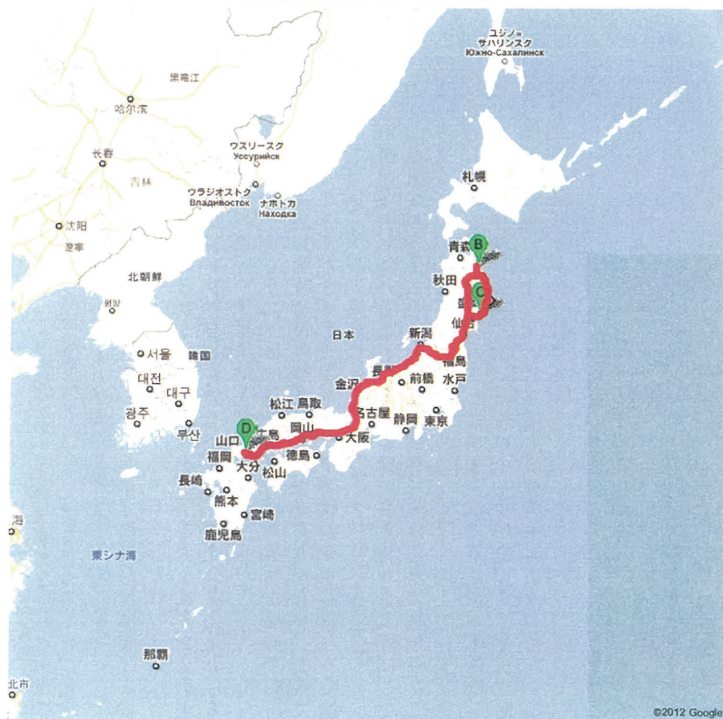


⑤⑥平成24年5月4日 復興商店街「紫市場」にて (写真左から筆者・紫神社前責任者 千葉様)



平成24年5月1日～6日 当院より東北の各地を疾走する白兎号（WHITE RABBIT）
 山口市→八戸市 走行距離1586 km 八戸市→気仙沼市 走行距離279 km
 気仙沼市→山口市 走行距離1422 km 移動時間：49時間 総走行距離 3288 km

山口県山口市大内矢田385までのルート
 3,288km一約1日22時間



中央道は渋滞のため北陸道、磐越道から群山、東北道へ

謹啓

青葉繁れる時節となりましたが、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたびの東日本大震災に際しましては、昨年より本校への多大なるご支援を賜り、また、山口市内の高校生の皆様から心温まるメッセージをいただき誠にありがとうございました。

さらに今年五月四日には、遠路はるばる本校生徒へ激励にお出でいただき、また、たくさんの方の医療物資をお送りいただきましてありがとうございました。さらに、山口市内高校生の皆様から励ましのメッセージ及び千羽鶴を本校のみならず近隣の高校にもたくさんいただきありがとうございました。

本校は津波によって全てを流失いたしました。昨年五月より近隣の高校の協力を得て教室をお借りし授業を再開することができました。また、昨年の十一月からは気仙沼高校のグラウンドに建てた仮設校舎に移転して、全校生徒そろって学校生活を再開したところです。

今年度は、四月九日より授業を開始しましたが、体育館もなく校庭も十分な広さもなくまだまだ不十分な教育環境ではありますが、工夫をしながら生徒たちの学びの保障と充実を図り、将来を担う産業人材の育成に向けて、学校関係者一同努力していく所存でございます。

皆様から賜りましたご支援やご厚意を、ご趣旨に沿って生徒のよりよい学校生活のため有効に使わせていただきたいと存じます。本来ならば拝趨のうえ御礼申し上げますところですが、書面をもちまして御礼の言葉とさせていただきます。

末筆ながら皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

謹白

平成二十四年五月吉日

宮城県気仙沼向洋高等学校

校長 瀬戸 巳治雄

医療法人社団水生会柴田病院

理事長 柴田 眼治 殿

謹啓

新緑の候となりましたが、貴台におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

このたびは、本市立小・中学校に對しまして、たくさんの方のハンドソープをいただき心より感謝を申し上げます。また、これまで楽器等の教材の提供や医療活動ボランティアなど、多くのご支援をいただきましたことに対しまして重ねて御礼申し上げます。

さて、昨年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震による大津波から一年が経ちましたが、「海と生きる」を合い言葉に全市を挙げて復興に向け取り組んでおります。甚大な被害を克服するには多くの時間と労力が必要ですが、子ども達は震災後からそれぞれの環境の中で、学校生活を精一杯過ごしております。

今回いただきました品々は、清掃活動のほか様々な場面で利用でき、子ども達の衛生環境を整える上で大変ありがたいご支援です。合わせていただきました小学校・中学校の皆さんからの応援メッセージは、子ども達を元気づける大変うれしい支援です。

市教育委員会といたしましても、皆様のお気持ちを大切にしながら、未来を担う子ども達とともに復興に向け全力で取り組んでまいります。

結びに、ご支援をいただきました柴田病院理事長柴田眼治様をはじめ職員の皆様、また、山口市内の小・中学校、高等学校の児童・生徒の皆様をますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬白

平成二十四年五月吉日

気仙沼市教育委員会

教育長 白幡 勝美

医療法人社団水生会

柴田病院理事長

柴田 眼治 様

◇

① いただいたハンドソープ・応援メッセージ等の配布先
市内全小学校二十校、
全中学校十三校 計三十三校

② そうきん

気仙沼市立大島中学校
気仙沼市立面瀬中学校
気仙沼市立新月中学校
気仙沼市立小原木中学校

② 応援メッセージ

大内南小学校様 ↓ 気仙沼市立鹿折小学校
小鱈小学校様 ↓ 気仙沼市立面瀬小学校
白石小学校様 ↓ 気仙沼市立唐桑小学校
白石中学校様 ↓ 気仙沼市立大谷小学校
山口農業高校、中村女子高校 ↓ 気仙沼市立気仙沼中学校
↓ 気仙沼市立条南中学校



柴田病院 理事長 柴田眼治 様

ご支援ありがとうございました。

洗剤4パックいただきました。大切に使用させていただきます。

おかげさまで少しずつ前に進んでおります。

平成24年5月9日

気仙沼中学校 校長 小野寺 良一



気仙沼市立気仙沼中学校

〒988-0073 宮城県気仙沼市笹が岡4-1

TEL 0226-22-6989・FAX 0226-22-6988 e-mail kesennuma-jh@blue.ocn.ne.jp

第2次東日本大震災復興支援活動参加について

管理部 施設課 山本 和康

今回の第2次東日本大震災復興支援活動参加が決定した4月26日（1800）既に決定していた自衛隊で実施される招集訓練（4月29日～5月1日）参加のため、何一つ準備が出来ず5月2日（1400）久しぶりの長距離運転をすることになり、緊張しつつ皆様に見送られ出発したのも、つかの間、準備段階から参加出来ていなかった、私のため車中で、事務長・久村部長から、今回の気仙沼地区活動状況（医療・福祉・記念植樹・炊き出し等々）の計画を伝達され5日間の行動を確認し柔軟に対応出来るよう入念にイメージトレーニングをしつつ気仙沼に無事到着。

休憩をする暇もなく暴風雨の中、直ちに仮設住宅（五右衛門河原）における医療相談コーナーの開設、北野神社で行う炊き出し等の準備に追われ「アッ」と言う間に時間だけが専攻している1日目が終了、と共に2日目の活動に対して再確認のためミーティング、それが終わり宿舎（紫会館）に、床につくや否や長距離運転もあり爆睡。

2日目も前日からの雨もあり避難勧告が出るほどの天候の中、祈念植樹（21本）・仮設住宅（田中前）における医療相談コーナー等の開設、同時並行しながらの炊き出し、復興商店街でのバーベキュー、山口の銘酒コーナー等、一人一人が広範多岐に渡る活動、当初の計画（気仙沼地区での支援活動）は全てほぼ完璧なまでに任務終了。

この度の強行的な計画がスムーズに実施できたのも、理事長の綿密な計画、その計画に基づき計画段階から現地での各種調整任務に携わった室長、また一人一人がその任務に対し笑顔を忘れず与えられた任務に使命感と責任感をもって任務を全うしたものに他ならない又忘れてはならないのは今回参加した12名は勿論のことこの支援活動に参加できなかった皆様からのご支援と応援があればこそだと感謝したいと思います。気仙沼と山口と遠く離れた地でも心が一つになる、この団結力で何事にも対応できる水生会の一社員として今後も誇りを持って任務に邁進していきたいと思います。有難うございました。

震 災 復 興 支 援 を 終 え て

管理部 施設課 栗原 慎介

以前「人間の脳内映像」について書かれていた記事を読んだ事がある。

それによると「人は自分の過去を思い浮かべる時、あるいは自分の未来を想像する時必ずその脳内映像の中に自分を置いてそれらを斜め上から見下ろすシーンである」と、あった。

今回の活動に参加し、長の旅を終えた今、当時を思い出すとき確かに斜め上から疲れ切った表情で救急車に乗車してる自分や支援隊長、室長の映像が浮かんで来た。それもそのはず我々第1陣は八戸までいきなり北上しそのまま踵を返し各被災地へ慰問・鎮魂の行脚を繰り返しつつ気仙沼まで南下した。距離にして1,900km、時間にして29時間、精根尽き果たして移動していたからである。先を思うとき些か憂鬱になったのは私だけだったであろうか。

ともあれ第1陣は目的地気仙沼に到着し、受け入れ側の北野天満宮や地元有志の坂本さん達との最初の接触をし、爾後、支援の打ち合わせ等をした。明けて5月3日16時鶴首して待っていた第2陣、第3陣、そして他、増強部隊が逐次加わり漸く支援も盤石の布陣を敷く事が出来た。支援隊は仮設住宅地2か所において医療支援、復興商店街にて炊き出し支援、北野神社にて神木の植樹支援等々、当初の支援隊長が立案した諸計画

の全てを遂行出来た。この事は室長の卓越した調整能力の高さであり、またそれを無くして今回の成功は覚束無かったと思う。併せて他の支援隊員の能力・団結力も決して忘れてはいけない。無論、支援隊長のタフな精神力と統率力は言わずもがなである。

5月5日、支援隊は全ての計画を終えて帰路に就いたが車中はまるで就学旅行の様に大騒ぎをしながらの移動であった。「帰心矢の如し」とはよく言ったもので復路は僅か24時間足らずで山口柴田病院に到着した。全員怪我なく無事の長旅を終えることが出来たのはこれもひとえに神様のお蔭であろうか。

正直、行く前はあまり気乗りしなかったがこうしてみんなと団結して困難な目標を達成するとそこはかたない充実感が込み上げて来るようで清々しい気持ちになる。

家に戻って落ち着いた頃、ふと来年の自分を想像した時、大型車の中で仲間達と大笑いしながら東北を移動してる自分の脳内映像が浮かび上がって来た。

これから先も理事長のお元気なうちはずっと支援隊の一員として新たなメンバーを加えて東北行脚に随行して行こうと思っていますのでよろしくお願いします。

第2次東日本大震災復興支援 活動報告書（2012年5月2日～5月6日）

報告者 老健3階 介護福祉士 景由洋一

活動先 気仙沼市 5月3日 五右衛門河原仮設住宅
5月4日 田中前仮設住宅～復興商店街

気仙沼市基本情報

平成23年(2011年):2月末における気仙沼市の人口と世帯数

人口:74247名

世帯数:26601

※ 気仙沼市のHPより



9/14:17:00 時の気仙沼市の被害状況※ 宮城県 HP のデータより

死者数:1015

行方不明者数:391

避難者数:388

避難所数:17

住宅、建物被害(全壊数+半壊数):10751

5月3日(雨) 15:45 五右衛門河原仮設住宅到着 全108棟/内105棟入居 240名



活動内容

バイタルチェック（血圧、脈拍、血中酸素濃度計測）

問診 骨密度測定 介護相談 マッサージ 笑いヨガ
ストレッチ 太極拳

悪天候だったこともあり、参加者は18名

世話役の方から

仮設住宅での介護ニーズについて、世話役の人に聞いてみたところ、今のところ介護ニーズについては特に上がってきていないが、集会所で行われているイベント等へ参加のない住民の生活状況の把握が難しくなっている。個別の訪問なども行っているが、なかなか家から出てこない人もおり、引きこもり状態のかたもいる。介護ニーズがあるのかもしれないけれど、拾いきれていないところもあると思う。



80代女性から(独居)

先日携帯電話が故障してしまい、修理に出そうと思ったが近くの販売店が連休中で休みに入ってしまったととても困っている。息子が漁師で海外におり、自分と連絡が取れず不安に思うかもしれない。早く修理したいが、足腰が悪いので車がないと遠くの販売店まで行くことができない。

雨が止んだら明日にでも、バスで販売店へ行きたい。

17:20 活動終了

5月4日(雨) 6:00 記念植樹 9:45 田中前仮設住宅到着 全20世帯



活動内容

バイタルチェック (血圧、脈拍、血中酸素濃度計測)
問診 骨密度測定 介護相談 マッサージ 笑いヨガ
太極拳 ストレッチ

参加者は11名。

測定終了後、復興支援商店街への移動まで時間があつたので濱田さんと一緒に個別訪問。



90代男性(寝たきりの奥さんと同居)から

前から持病があり血圧が高く、先生からも血圧高いから酒を飲むのを止めるよう言われているが、することもなく退屈なので昼間から酒を飲んで過ごしている。今日も集会所のイベントのあと酒を飲んできた。

住居によっては、お酒の瓶や酎ハイなどの缶がゴミ袋にたくさん入っているところもあった。



90代女性(独居)から

先日家の前の階段で転んでしまい、腰を強く打ってしまった。世話役の人(?)に頼んだところ、玄関先に横手すり、家の前にスロープを付けてくれたので、とても助かった。

仮設住宅では、玄関先にスロープがついておらず高齢者や障害者にとっての住環境整備は、あまり充実していない。

それぞれの家の前には、玄関が設置されているが屋根は金属板葺で横から風が吹くと雨漏りがしてしまい、玄関内が濡れてしまう。



30代女性(就学前のお子さんが3人)から

家を新築した直後、津波で流されて途方にくれている。

仮設住宅では、壁が薄いのでプライバシーの確保ができず悩んでいる。子供が三人もいるので家の中で遊ばせると近所の迷惑になるので、集会所で遊ばせている。

昨年の夏は暑かったのでアミ戸あったらよかったが、設置されたのは今年になってからで全く役に立っていない。お風呂の追い炊き機能も欲しかったが、最近になってようやく設置されるようになった。行政の対応は、どうしてこんなに遅いのか疑問に思う。仮設住宅にいつまでいられるのかわからないが、将来が不安。



世話役の人から

こちらの仮設住宅でも介護へのニーズは特にあがっていないとのこと。他の仮設住宅同様、一部住民の引きこもりがみられる。震災直後は、ほとんどの人が集会などに参加していたが、最近参加しない人が増えてきた。

被災証明を取得するとほとんどの行政サービスが無料になるが、被災証明の取れなかった被災者に対して抵抗（申し訳ない気持ち等）があるのか、医療などサービスを利用しないというかたもいる。

最近では、ほとんどの人に職がなく、また職場も復旧のめどがたっていないため、補助金などを受け取ってもパチンコなどに遣う人が多く、近所のパチンコ店は繁盛している。



13:30 活動終了

14:00 復興商店街炊き出し活動準備

14:20 炊き出し活動開始



復興支援活動を終えて

以前から、支援活動に行ってみたいと思っていたが、費用や宿泊施設の確保などのことがあり参加することができなかった。今回、現地での支援活動に参加することで報道では伝えていない、生の情報を肌で感じることができた。震災から1年が過ぎ確かに場所によっては、以前の生活を取り戻している人もいる。しかし、復興から取り残された地区もあり、人々の生活に格差が生じていることをみることができた。沿岸部では、行政の措置で新しい建物を建てるができなくなっている。このため、水産加工場などを建築することができず、他の地域に働く場所を求めていく人が多くなっている。働く場所がないと今後は人口の流出が止まらず、地区全体が過疎化してしまう可能性が考えられる。復興支援のイベントなどは単発的に地域の活性化につながっているが、今後の地区の発展を考えるともっと長期的な視野に立った都市計画等が必要だと考える。仮設住宅では、引きこもりの人がだんだんと増えてきている様子を見ることができた。震災直後はまだ周囲の住民との交



流があったが、復興が進むにつれてそれぞれの生活が始まっている。しかし高齢者や障害者などの生活は、震災直後から止まったままでも何が変わっていない場合が多いと思う。働く場所や自分を活かせる場所がないと、周囲の人と顔を合わせたり、一緒になってイベントに参加したりする気は次第なくなってくると思う。今回の支援では、天候や時間の都合上、個別の訪問は数件しかできなかったが、近所の人には話せないが外部からのボランティアには話してもいいと思っている人もあるので、今回の活動は引きこもりの者の状態把握に効果のあることだと思う。

東日本大震災 支援活動協力メンバー

① 平山 英子（ひらやま えいこ）



一次支援参加

現在 ヨーガ講師

ラフターヨガ

インストラクター

【趣味】読書、旅行

④ 伊藤 順子（いとう よりこ）



二次支援参加

現在

笑いヨガ（ラフターヨガ）ティチャー

教育カウンセラー（私立高等学校

勤務）、宮城県青少年育成アドバ

イザー連絡協議会会長、仙台市青

少年指導員・宮城野区青少年推進

委員

② 三戸 泰子（みと やすこ）



一次支援参加

現在 養生庵泰山 代表

国際中医薬膳師

【趣味】「薬酒つくり」と

「四柱推命」

⑤ 柴田 輝明（しばた てるあき）



一次支援参加

山口県山口市出身

昭和十九年十一月二十二日生

現在

医療法人社団天徳会北本整形外科

理事長・院長、埼玉県医師会理事、

埼玉県整形外科医会副会長、埼玉

県高体連剣道部スポーツドクター

③ 伊藤 和夫（いとう かずお）



二次支援参加

現在 株式会社 広友 会長

【趣味】ゴルフ、料理研究

平成二十三年五月三日～五日 埼玉県医師会JMATのチームを結成し、宮城県気仙沼市に東日本大震災で被災された気仙沼市教育委員会・気仙沼市医師会関係者そして住民の被災支援、救護活動を行った。
同年五月二十一日に埼玉県加須市元県立騎西高校内に避難されている福島県双葉町の住民に対し、「増田明美さんとロコトレをしよう」の企画をし支援活動を行った。
現在の子どもから高齢者のロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防（ロコチェック・ロコトレ運動）を日本全国に普及活動中である。



⑥ 柴田 峰行（しばた みねゆき）

一次支援参加
現在 おみや東整骨院院長（埼玉県さいたま市）・柔道整復師、鍼灸マッサージ師、埼玉県体育協スポーツ科学委員会 医学専門部会スポーツトレーナー
【趣味】スポーツ観戦
フィジカルトレーニング



⑦ 澤木孝師（さわき たかし）

二次支援参加
現在 ㈱日本経営 課長
【趣味】野球、旅



⑧ 石塚 秀樹（いしづか ひでき）

二次支援参加
現在 ㈱アトラスコンピュータシステム開発部／
災害支援対策本部長
【趣味】インターネット



⑨ 廣光 靖（ひろみつ やすし）

二次支援参加
現在 ㈱アトラスコンピュータシステム開発部／
災害支援対策本部員
【趣味】フットサル、サッカー観戦



⑩ 板東 賢治（ばんとう けんじ）

二次支援参加
現在 ㈱アトラスコンピュータシステム開発部／
災害支援対策本部員
【趣味】八〇年代漫画関連グッズ集め



⑪ 大塚 崇（おおつか たかし）

二次支援参加
現在 ㈱アトラスコンピュータシステム開発部／
災害支援対策本部員
【趣味】睡眠



⑫ 柴田 眼治

一次・二次支援参加
〔職種〕 外科医師

日医認定産業医
日体協スポーツドクター
医療法人社団水生会
理事長



⑬ 柴田 阿佐子

一次・二次支援参加
〔職種〕 水生会

薬剤師・薬局長



⑭ 片柳 良一

二次支援参加
〔職種〕 同管理部事務長



⑮ 久村 浩隆

二次支援参加
〔職種〕 管理部部長



⑯ 柴田 三大

一次・二次支援参加
〔職種〕 管理部経営企画室室長



⑰ 山本 和康

二次支援参加
〔職種〕 管理部施設課課長
元自衛隊中部方面通信群



⑱ 栗原 慎介

二次支援参加
 「職種」 管理部施設課係長
 元自衛隊第十七普通科連隊
 P K O モザンビーク派遣経験



⑲ 入江 毅

二次支援参加
 「職種」 水生館院長
 鍼灸師、柔道整復師



⑳ 入江 真紀

二次支援参加
 「職種」 リハビリテーション科
 水生館事務 助手



㉑ 安達 信俊

二次支援参加
 「職種」 准看護師、臨床工学技士
 人工透析センター次長



㉒ 濱田 栄治

二次支援参加
 「職種」 老健アークス（長寿）
 看護師、ケアマネージャー



㉓ 景由 洋一

二次支援参加
 「職種」 介護老人保健施設「アークス」
 介護福祉士

長州ファイズと大村益次郎の顕彰パネルの建立について

八田ひろいち、岡田正明、入江正敏

文久三年（一八六三）五月十二日、若き五名の長州藩士がひそかに英国船に乗り込み、横浜港からイギリスへ出航した。

その五名とは、志道聞多（しじもんだ）（後の井上馨 二十八歳 一八三五～一九一五）、遠藤謹助（二十七歳 一八三七～一九一七）、山尾庸三（二十六歳 一九三六～一八九三）、伊藤俊輔（伊藤博文二十二歳 一八四一～一九〇九）、野村弥吉（井上勝 二十歳 一八四三～一九一〇）

その二日前の五月十日、長州藩は久坂玄瑞が指揮して亀山砲台から関門海峡を通航中

の外国船を砲撃し、將軍家茂が孝明天皇に約束した攘夷戦を実行した。しかし外国軍艦の反撃を受け、藩は守勢にまわる。このような鎖国と攘夷の最中、彼らは藩の内命により生命をかけての密航留学を決意したが、彼らの渡航と生活費一人千両が必要だった。その費用の全額を調達斡旋したのが村田蔵六（のちの大村益次郎長州藩江戸留守居役）だった。開明派の彼は五名の悲壮な熱意にうたれ、藩出入りの豪商伊豆倉、大黒屋から藩の鉄砲購入費用一万両を引き当てに五千両を用立てた。五名は決死の覚悟でマセソン社のチエル

スウィック号に乗船し、イギリスへ出発することができた。

途中二隻の船に分乗し、十一月四日、ロンドンへ着き、ロンドン大学科学教授のウィリアム・ウィリアムソン教授夫妻邸に寄宿し、親身な世話と指導を受けながら近くのロンドン大学(UCL)に入学して勉学に励んだ。英語も出来なかった彼ら密航留学生は言葉や文化の違いに苦しみながら日本の近代化の礎をつくるために学び全てを吸収していったのだった。



長州ファイブのイギリス留学と 帰国後の活躍

ロンドン大学で、五人はウィリアムソン教授の分析化学の講義を受けることから始めた。しかし、伊藤と井上馨はロンドンタイムズで四ヶ国連合艦隊が下関を砲撃したというニュースを知り、留学半年後、急遽帰国。



伊藤博文(伊藤俊輔)は帰国後、英
国軍艦に乗り込んで長州との和
解を嘆願。その後ドイツ憲法をモデ
ルに日本最初の憲法、大日本帝国憲法(欽定
憲法)の制定に尽力する。

日清戦争での勝利で、清国大使・李鴻章との
講和談判を成功させ、「日清講和条約(下関
条約)」を締結。そのときの補償金で八幡に

製鉄所が建設される。伊藤によるフグの解禁は今に語り継がれるエピソードである。

初代総理大臣、「日本の内閣の父」と呼ばれている。



井上馨（志道聞多）はもともと海軍の技術を学びにロンドンに渡ったわけであるが、強力な英国海軍を目の当たりにし、攘夷論から開国論へと転換する。山口の湯田で攘夷論の俗論党に斬り付けられ、九死に一生を得た。維新後、伊藤の片腕として明治政府を支える。日本が文明国であることを諸外国に示すため鹿鳴館を建設し社交の場とする。

初代外務大臣、「日本の外交の父」と呼ばれている。



井上勝（野村弥吉）はロンドン大学で、鉄道、鉱山学について学ぶ。明治元年帰国後、日本の鉄道発展に尽くす。明治五年（一八七二）には新橋・横浜

間が開通。「どうぞ」と、天皇の乗車を案内する。それまでお雇い外国人技師による鉄道建設であったが「日本人の手で」という思いで、工技生養成所を開設し鉄道技術者を養成する。井上も教壇に立つことがあった。明治一三年（一八八〇）には京都・大津間の難所・逢坂山トンネルを日本人技師だけにより開通させる。これを機会に、日本の鉄道網は飛躍的に発達する。鉄道建設の見返りに、岩手の不毛の原野を開拓し、小野義真（日本鉄会社副社長）、岩崎弥之助（三菱社社長）井上勝の頭文字をとり、小岩井農場と命名する。ロンドン大学の学籍簿に記載してある

「NOMURAN」は酒豪であつた「飲む乱」から由来している。井上自身この呼び方を気に入っていたようである。東京駅丸の内口には井上の銅像が建つ。

初代鉄道庁長官、「日本の鉄道の父」と呼ばれている。



山尾庸三は二年あまりのロンドン大学での勉強の後、造船を学ぶため産業革命の中心地であつたグラスゴーに移動し、昼間は世界屈指のネイピア造船所徒弟として働き、夜はアンダーソンズ大学（現ストラスクライド大学）で造船、製鉄、炭鉱について学ぶ。後の工部大学校初代都検ヘンリー・ダイアーとは同窓である。イギリスでの体験から工業力の強化を痛感し、帰国後、エンジニアを養成するための工学寮を設

置、これは後、工部大学校となる。第一期生には東京駅設計の辰野金吾、アドレナリン抽出の高峰譲吉などを輩出する。工部大学校はその後、東京大学工学部へと発展する。「今為スノ工業無クモ、人ヲ作ラバソノ人工業ヲ見出スベシ」と、人づくりの重要性を説いている。「工学」は彼の造語。また障害者教育にも力を入れ訓盲院を設立する。「蛍の光」は元々スコットランド民謡「オウルドラングザイン」で、これを日本に持ち帰ったのも山尾である。

「日本の工学の父」「聾盲哑教育の父」（ろうもうあきょういく）と呼ばれている。



遠藤勤助は冶金学（やきんがく）、貨幣や紙幣の製造について学び、その活用方法についての法律的制度

も研究。慶応二年、三年間の留学を終え帰国。明治一四年から二六年まで造幣局長を務める。造幣局は化学、冶金学など西洋科学の粋を集め総合工場で英国から技師が指導に派遣されていた。遠藤は日本人の手で貨幣製造を行うことに尽力した。大阪の春の風物詩となっている「造幣局の桜の通り抜け」は局員だけではもったいないという遠藤の提唱から始まったことは有名である。「日本の造幣の父」と呼ばれている。

長州ファイブの顕彰パネルは山口市のボランティアグループ大内倶楽部が平成二一年六月二八日に山口市小鯖柵の大村益次郎医学記念碑広場に建立した。山口市立大内中学校グラウンド南に隣接する台地である。

